



桐生ロータリークラブ週報

2006年

国際ロータリー第2840地区 2005-2006年度 国際ロータリーのテーマ



超我の奉仕

Service above self

R.I 会長 カール・ヴィルヘルム・ステンハマー

善意というものがないなら

ロータリークラブは唯の社交クラブだ。

職業は金儲けのためでしかなく、

社会奉仕というも施しにすぎず、

国際奉仕は外交以外の何ものでもない。

パストガバナー 前原勝樹

会長館 盛治 幹事 川島 康雄

クラブ会報・広報委員会 木村 滋洸 藤井 征夫 佐々木 裕 吉野雅比古 石島 久司 大友 一之

1月30日号

第2553回例会

(1月23日(月) 第2例会)

1. 点鐘
2. ロータリーソング斉唱
3. 来訪者紹介
4. 出席100%表彰
5. 会長の時間
6. 幹事報告

7. 委員会報告
8. 草話 「ガバナー講話」
国際ロータリー第2840地区
ガバナー 曽我 隆一君
9. 点鐘

ようこそビジター

（卓話者） 国際ロータリー第2840地区 ガバナー 曽我 隆一君

出席100%表彰

大友 一之君 1回



会長の時間

ご報告から申し上げます。桐生ロータリークラブの2006年度初例会は1月16日に始まり私の年度もいよいよ後半に入ります。夜には6時30分から、桐生RC総合企画特別委員会の第5回家庭集会が、山口委員長のもと13名の出席にて開催されました。桐生RCの後半期の活動予定が主な議題でした。これから実行計画としては、まず委員会としては第4回家庭集会の論点の中の第1、全員に声をかけて出席100%例会を創立記念例会としての実施、委員会ごとの担当例会の開催等が主だったもので、まずは出席委員会が担当で総合企画委員会の協力を得て、RCの基本である出席率の向上をめざし3月の月間の例会にて実施推進する方向性を確認致しましたので会員皆様のご協力をお願い致します。

1月21日(土)には桐生RCの会長・幹事が開催されました。主な協議事項は、後半に行われる群馬大学留学生交流会についての実施日・場所・交流内容等の討議が行われました。以上が報告事項です。

今日は曾我隆一ガバナーをお迎えして、私をはじめ会員皆様も大変緊張して後半期のスタートになります。前半におきましては、2840地区で初めて実施された桐生RC合同ガバナー公式訪問例会を、森喜美男ガバナー補佐のホストクラブとして無事に実施することが出来ました。又

10月29日から11月1日迄のドイツよりのGSEの受入を、前原勝良国際奉仕委員長をホストファミリーとして、桐生RCと共に無事に実施できました。会員皆様のご支援、ご協力ありがとうございました。

2005～2006年度 曽我隆一ガバナーのもとにPets 地区協議会において、ロータリークラブの危機打開の指導をいただき、その指導に基づき、クラブリーダーシッププラン(CL P)による組織の強化、クラブ活性化のため会員増強、会員の拡大を増強委員会の強化に努力してきました。委員会活動の活性化には川島幹事と共通の認識で、各委員会の構成を多人数で組織し、一人の会員が2つ以上の委員会に所属し家庭集会も多人数で活発な意見を出し討論していました。同時に親睦も深め意志の疎通を計ってまいりました。

前半においては、蓮直孝増強委員長・山崎達也前年度委員長とSAA・出席・親睦活動委員と連係し、合同家庭集会を地区的増強セミナー研修を基に開催され、年初の会員61名から1月16日の新会員2名を加え、総勢65名と増員出来ました。また3月にも数人の入会が予定されています。曾我ガバナーをお迎えしての例会で、今年度目標の会員純増3名達成が報告できる事は大変光栄でございます。やはりクラブ活性化は、新会員による新しい風の導入による活動のマンネリ化の打破、そして会員拡大による財政基盤の確立と会員の増強が、クラブ基盤の強化になると思います。

後半期の活動も会員数70名達成を目指し、そして楽しく充実した魅力ある桐生RCを確立するため、桐生RC総合企画特別委員を中心に協議、討論を重ねて実施して行きます。どうか会員一人一人のご支援、ご協力をお願いします。本日このお話をし、曾我ガバナーをお迎えしてご報告できる事を会員皆様に感謝申し上げ、会長の時間とさせていただきます。

幹事報告

例会場 桐生俱楽部 TEL45-1513 例会日 毎月曜日 12:30PM

ホームページ <http://www.Kiryu.co.jp/Kiryurc/>

メール Kiryu-rc@ktv.ne.jp

- 国際ロータリーよりロータリーワールドが届いております。
- ロータリーの友事務所よりロータリーの友 表紙の写真募集要項が届きましたので、各テーブルに配布してございます。興味のある方はご応募下さい。
- 桐生南・桐生西・桐生中央の各RCより週報到着。
- 例会終了後、1号室にて第4回クラブ協議会を開催いたします。理事・役員・各委員長の皆様は出席の程よろしくお願い致します。

委員会報告

出席委員会

本日の出席(平成18年1月23日)：総員65名・出席45名
平成17年12月26日例会修正出席率：85.4%

ニコニコボックス

国際ロータリー第2840地区ガバナー曾我隆一君／吉野一郎君・森喜美男君・館盛治君・川島康雄君・山口正夫君・村田勝俊君…曾我ガバナーをお迎えして／大友一之君…出席率100%表彰を頂きました。これからも宜敷くお願いします。／藤井征夫君…1月18日、日本ガス協会の新年賀詞交換会で塙越会長様、社長様にお世話をになりました。／木村滋洸君・前川佳彰君…結婚祝／森喜美男君・園田誠君…誕生祝／吉野一郎君・牛腸章君・吉田栄佐君…塙越さんに写真を戴きました。／坂入勝君・前原正一君・竹内康雄君・矢野昭君・阿部高久君・五十嵐健雄君・北川洋君・藤江篤君・園田誠君・深井彰彦君…写真を戴きました。

卓話



「ガバナー講話」

国際ロータリー第2840地区
ガバナー 曾我 隆一君

皆様こんにちは!!

ご紹介頂きました地区ガバナーの曾我隆一であります。森G補佐の要請にて、本日桐生クラブの例会に出席し、G卓話の機会を頂きまして、大変光栄に存じ、感謝申し上げます。

昨年9月4日に桐生5RC合同ガバナー公式訪問をさせていただき、大方の皆様にはお会いしているかと思いますが、始めの会員の方には何卒宜しくお願いを申し上げます。

館会長から「クラブ自慢」でご紹介いただいたように、登録有形文化財第1号のここ桐生俱楽部会館の演壇に立ちますと、桐生ロータリークラブの歴史と伝統を実感し、身の引き締まる思いができます。

今日は桐生クラブ単独で通常例会のゲストスピーカーということで、若干のお時間を頂き、率直にお話したいと存じます。

さて、いまから7年前の1999年日経ビジネス4/5号に、昨年11月に96歳で惜しくも亡くなられたP.F. Druckerの示唆に富む言葉が掲載されました。それは、「今、18世紀の産業革命をも上回る大変革が起きている。今は、奥深い過渡期(Profound Transition Period)に当たる」といわれました。意味するところは、工業社会(モノを売って稼ぐ社会)からサービス社会(知識・ノウハウ・アイディアを提供して稼ぐ社会)に転換中であり、日々創造的破壊が行われているのであります。

この時代の潮流は、決してロータリーを例外にするものではありません。

昨年ロータリーは2月23日の創立100周年を世界中で盛大に祝いました。そして、私はロータリー第二世紀幕開けの最初の地区ガバナーとして、次ぎの100年に向かって、今、ロータリーにおいて何が最大の課題なのかを検討、吟味を致しました。

それは、日本、そして我が地区においても同じ課題、つまり会員数の減少であります。私見ですが、会員数の減少は、主に所謂バブル期に拡大設立した比較的歴史の浅いクラブと、正反対に歴史と伝統を誇る基幹クラブに顕著に表れているように思われます。2840地区はここ5年間、不幸にして確実に年間100名の会員を失って参りました。このままで行ってしまって、クラブも地区も運営と財政の見直しをしないと存続できなくなるのが確実であります。この点については、年度の開始前、スタート後のあらゆる会合で「ロ

ータリーの危機」について繰り返して申し上げてきました。大事なのは、「危機」は会員数の減少という現象面の背景にある、ロータリーの魅力の低下であります。私は、大変な危機感を持って、ロータリーの魅力と社会的存在価値の再生に、地区全体で取り組む必要があると感じています。それでは、具体的にどうすれば良いのか、クラブ組織と運営を強化し、クラブ活動を取り戻すことが大切である。それには先ず、観念論だけでなく、合理的な手法、ツールを用意しクラブに提供しようということで、年度の始まる前から各G補佐を通じて各クラブ会長に再三お願いしてきました。

桐生クラブの皆様にも会員満足度アンケートやクラブ活動テストを実施していただき、その結果を拝見しております。大事なのは、これからその結果をどう受け止め、どう改善していくのか、ということであります。

地区としては、これから年度後半で、それぞれのクラブの進捗度をチェックして、担当のG補佐と地区21世紀委員会と連携して、改善のお手伝いをしていきたいと考えているところであります。

さて、折角の単独クラブ例会ですので、私として、僭越至極で、失礼のだんは何卒、ご容赦頂きたいのですが、桐生クラブが群馬初のロータリークラブとして名実共に地区的リーディング・クラブとしてこれからも地区を引っ張つていって頂きたいという切なる願いを込めていくつか申し上げたいと存じます。

今、私は、データを拝見して、実は大変驚いているのですが、桐生クラブの抱えている現象面での課題を私なりに、整理してみると、一つは、会員数のことであります。1991-92下山会長年度の100名をピークに、ここ2-3年は60名台前半で推移していること。第二は、出席率が低位であること。下山年度の97.34%をピークにここ2-3年は70%台であり、直近の昨年10月では76.96%となっていて、この数字は残念ながら地区内でもっとも低いクラブの部類となっている状態であります。自分の出身クラブのことを申し上げるのは恐縮ですが、前橋クラブは創立50周年を3年前に迎えて以来、21世紀委員会を推進しクラブ改革に取り組んでおりますが、3年前の会員数97名から現在は105名、出席率は95%前後を維持し、会員満足度も劇的に向上致しました。私は、具体的なクラブ改革の行動を起こすことが重要だと信じます。

第三は、いろいろ温度差があるかと思いますが、女性会員が居られないことであります。現在2840地区内47クラブのうち女性会員がいないクラブは桐生クラブ含めて16クラブ(34%)となっています。地区全体では女性会員75名、全体会員の3.6%で、これは日本全国平均よりちょっと上という位置にいます。ステンハマー会長はことあるごとに優秀な能力、才能の発掘といった視点は是非、女性層に働きかけてください、と言われています。

第四は、米山奨学金とロータリー財團へのご支援・ご協力を是非しくお願いいたしたいということです。財團や米山に関するいろいろな問題点は私も承知していますが、ロータリアンとしての本質的あるべき生き方の中で、是非ご理解を賜り、地区リーディングクラブとして一層の寄付増進を心よりお願い申し上げます。

第五は提唱しています桐生RACのことで入れであります。私の記憶では青少年奉仕部門では大変優れたロータリアンを数多く輩出しているのが桐生クラブであると承知しています。RACの会員減少は地区の他のクラブでも共通の課題ですので、提唱クラブとしての責務を果たして頂くよう、何卒宜しくお願いします。

これら申し上げましたことは、すでにクラブリーダーの方々そして2002-03年の50周年時、阿部会長年度に発足しました、総合企画特別委員会で種々ご検討をされていることと、存じますが、具体的なクラブ改革の成果がでてきますことを心より願うものであります。このことは地区内のすべてのクラブが等しくリーダークラブである桐生クラブに期待していることがあります。

合同公式訪問の時にも、申し上げましたが、伝統は変化への積み重ねであります。中国の易經にもあります「窮すれば、則ち変ず、変すれば則ち通ず」また、福沢諭吉は「三度敗れて一度成れば、前後つながって余りあるなり」といわれています。

どうぞ、2840地区的名実共にリーディング・クラブとして再活性化の道が開けますことを再度、ご期待し、スピーチとさせていただきます。

ご清聴有り難うございました。